



自然の 魅力を発見!

観て・触って! 夏を楽しもう!

多賀城市には里山や水田など豊かな自然環境が広がっています。
自然と触れあって環境について考えてみませんか?



身近な自然に五感を研ぎ澄ませます

6月4日(日)に多賀城みずむすび公園(大代)で市主催の「たがじょう生き物調査隊」が開催されました。自然散策やネイチャークラフト、釣りやゴミ拾いなどを通し、自然環境を守ることを考える目的で開催されており、抽選で選ばれた17組の親子が参加しました。当日の事業を運営したNPO法人宮城県森林インストラクター協会には、250人を超えるインストラクターが在籍。企業の森づくり活動の支援や、子ども会や町内会、小中学校などで自然体験イベントを行うことで、豊かな森林を未来に引き継いでいくことを目指しています。この日は6つの班に分かれ、各班で話し合って散策場所を決め活動をしました。

子どもたちはインストラクターのアドバイスを受けて、目線の高さを変えたり同じ場所にとどまってじっくり観察したり、木の幹に触れたり音に注目するなど工夫をしながら散策していました。シャリンバイの近くを通ると「この樹皮は着物を染める材料になるのよ」と植物に関する雑学も教えてくれました。参加した子どもたちは「いろいろなことが知れてよかった」「貞山堀にカニがいてびっくりした!釣りができてよかった」と笑顔で話してくれました。

自然の素材が世界でひとつの宝物に

6種類の工作から好きなものを選ぶネイチャークラフト。使用するほとんどの材料は、伐採や剪定した木の枝や木の実などを利用しており、自然の匂いや手触りを感じるオリジナルの作品が出来上がりました。木の種類によって仕上がりが違うため素材の特徴や名前を知るきっかけにもなりました。

体験で育まれる「環境への意識」

参加者は普段は聞き流している音に耳をすましたり、あまり触れないものに触れたりすることで、自然に関する知識を学びました。あわせて行われたゴミ拾いでは、ビニール袋や缶など私たちの暮らしの中から出たものが多く見つかり、普段の生活と自然環境とのつながりもみえてきました。自然環境のためにできることを、身近なところの観察から考えてみませんか?



◀貞山運河での釣りを通して、生き物に触れました。



多賀城市の生き物たち

市内の生き物や環境についてもっと詳しく知りたいという方は、多賀城市都市産業部環境施設課資源環境係が作成した資料(PDF)があります。興味を持った方は参考にしてみてください。

NPO法人宮城県森林インストラクター協会

〒981-0121 宮城郡利府町神谷沢字菅野沢41 青少年の森内
電話：022-255-8223



シジュウカラガン 復活を願うタッグ

絶滅危惧種のシジュウカラガンの群れを
多賀城に呼び戻そうという取り組みが昨年秋に始動しました。

撮影：戸島潤さん

ガンの群れを再び多賀城の空へ

「シジュウカラガン復活プロジェクト」は、かつて国内最大の越冬地だったとされる七北田低地に再びシジュウカラガンの群れを呼び戻したいという想いのもと始動しました。一時は絶滅のおそれがあったシジュウカラガンは、保護活動により日本国内への飛来が1万羽を超えるまでに回復しましたが、現在も七北田低地への群れでの飛来は確認されていません。

プロジェクトは、長年ガンの保護活動を行ってきた日本雁を保護する会の「将来を担う若者と考えたい」という想いを受けて参画することになった、七北田低地に校舎がある仙台育英学園高等学校外国語コースの生徒、環境の専門家である東北緑化環境保全株式会社、社会奉仕団体である仙台ロータリークラブの4団体の協働事業です。それぞれの特性を生かし、力を合わせ、シジュウカラガンの群れが七北田低地に戻ってこられるような地域づくりを、環境・歴史・文化の多方面から考えてきました。昨年12月7日(水)には、大崎市の化女沼^{けじょ}でシジュウカラガンの観察会が行われ、参加した仙台育英



↑七北田川を挟んで多賀城市と仙台市に広がる七北田低地。

のみなさんは、群れで飛ぶ力強い姿に感動し「この景色を多賀城にもよみがえらせたい」という想いを一層強めたそうです。

ユース世代の想いとアイデア

5月26日(金)には公開シンポジウムが市立図書館のオープンスペースで行われ、YouTubeで同時配信されました。基調講演のあと、仙台育英のみなさんがプロジェクトを通して学んだことを元に考えたアイデアを発表しました。内容は、シジュウカラガンを知ってもらうため、身近に感じてもらうために、「かわいく思い出を残しながら宣伝にも使える」というシジュウカラガンをイメージしたポーズの考案、「親しみを持ってもらい、子どもから大人まで広い世代に周知できる」というキャラクターを制作する案。生息環境の保全や確保のために、ゴミの分別に力を入れる、川や海の清掃を行う、農家と「おにぎり交流会」を行いシジュウカラガンへの理解を深めてもらう案など。「提案したアイデアを、できることから取り組んで実現していきたい」と、仙台育英のみなさんは今後の展望を語ってくれました。

現在はシジュウカラガンの群れが七北田低地に戻ってくる一歩手前だそうです。生息に適した環境を守ることは、生物多様性の保全にもつながります。シジュウカラガンの群れが飛来



↑高校生ならではの柔軟な発想で、さまざまなアイデアを提案しました。

する多賀城の空…それは多賀城が自然豊かで住みやすいまちだという証しです。みなさんでもできることから考えてみませんか？

シジュウカラガン復活までの道のりをもっと知りたい方はこちら

「シジュウカラガン物語 -しあわせを運ぶ渡り鳥、日本の空にふたたび! -」
 呉地正行+須川 恒(日本雁を保護する会) / 編 (京都通信社 / 発行)
 たがさぼの図書スペース「たがさぼ文庫」でも閲覧・貸出ができます。

プロジェクト情報



Instagram 

YouTubeチャンネル 

訂正 104号(表・本文1行目)に右記の通り誤りがございました。誤：多賀城市と山形県天童市は2018年から友好都市です。お詫びして訂正いたします。正：多賀城市と山形県天童市は2006年から友好都市です。


「tag」とは

「tag」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。

 ホームページ  ブログ

アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします！

 ・自分たちの団体を取材してほしい
 ・こんな話題を取り上げてほしい
 ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている